

第7回 社会資本としての住環境研究会



『ユニバーサルデザインの基礎と実践』出版記念セミナー

ひとの感覚から空間デザインを考える プラスのデザインからマイナスのデザインへ

■日時 **2021年 2月13日 (土) 14:00~16:00** (13:50入室開始)

■会場 **Zoomによるオンラインセミナー**

お申込後、ミーティングIDをメールでお送りいたします

参加費無料

■ディスカッション

原利明・伊藤納奈・太田篤史・船場ひさお・松田雄二・矢野喜正(身体と空間特別研究委員会)
+丹羽太一(東京大学REDDY、一般社団法人LIFETIME HOMES ASSOCIATION)

主催:日本福祉のまちづくり学会身体と空間特別研究委員会+LIFETIME HOMES ASSOCIATION

■趣旨

これまで、研究会ではライフタイム・ネイバーフッドの考え方を紹介してきましたが、地域のユニバーサルデザインの実現において、重要な点のひとつにインクルーシブデザインの実践があります。

インクルーシブデザインはユーザーを中心に考える設計やデザインの手法です。そのプロセスは、ユーザーである当事者として多様な人が参加することによる発見からスタートし、サービスやコミュニケーションを含む総合的なデザインを目指すものです。そこではどんなグループの人びともデザイン・チームの一員となって仕事を進めることを求められます。

そのなかでデザイナーは、社会的な諸問題を解決する役割を自覚し、ユーザーの代弁者となり、公衆についての理解を深め、包括的な総合者としてデザインの成り行きを見る目を持たなくてはなりません。デザインによる排除をなくすために、障害はデザインの側にあることを認識し、いわばデザインの社会モデルを実践することが重要です。

研究会理事の原利明が編著者のひとりである『ユニバーサルデザインの基礎と実践 ひとの感覚から空間デザインを考える』は、環境にある障害を、ひとの身体・感覚から捉えて整理し、解消するためのデザインの解説書です。

ユニバーサルデザインを障害者の問題ではなくデザインの問題として考え、環境のバリアをなくすためのインクルーシブデザインにおける設計者、デザイナーのあり方を問う、ひとつの道標となるものです。

今回は特別編として、編著者の方にこの本の内容を伺いながら、デザインする側、コミュニティの側が当事者にアプローチするインクルーシブなデザインの大切さについて考えます。

■プログラム

- 14:00~ 開催挨拶
- 14:05~ イントロダクション(5分)×6+ディスカッション
- 15:35~ 質疑応答
- 16:00 閉会

■申込み (締め切り 2月8日(月))

- ・参加費 無料
- ・定員:40名
- ・情報保障(字幕):字幕表示について対応検討中
- ・参加お申込みを以下のフォームよりお願いします

<https://basstronauts.sakura.ne.jp/ssl/lifetimehomes/register.html>

- ・E-mail でのお申込:件名「第7回 社会資本としての住環境研究会」とし、お名前・ご所属・ご連絡先メールアドレス・情報保障などのご希望を明記の上、以下お問い合わせ先アドレスまでお送りください。

■お問合せ:contact@lifetimehomes.jp